

平成 21 年 6 月 9 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18530471
 研究課題名（和文）高齢者福祉の場における対人援助技能習得プログラムの開発
 研究課題名（英文）A program on coordination skill learning in the field of medical care and social welfare -an attempt of joint seminars by Faculty of Social Welfare and Faculty of Health Science
 研究代表者
 横山 奈緒枝（YOKOYAMA NAOE）
 吉備国際大学・社会福祉学部・准教授
 研究者番号：90319989

研究成果の概要：関連資料・文献による分析と、大学の実習教育担当者、老人保健施設の実践者への実態調査をふまえ、医療や社会福祉領域の専門職者養成における対人的技術の教育課題について研究を行なった。各領域における技術を整理し、領域を超える 12 の共通スキルを抽出した。スキルごとに「技能習得プログラム及び評価票（試案）」を作成し、これを用いた演習を実施し、効果と課題を分析した。研究内容の公表と共に、研究成果について取りまとめた報告書を作成した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,500,000	0	1,500,000
2007年度	600,000	180,000	780,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	390,000	3,190,000

研究分野：高齢者福祉、社会福祉援助技術演習
 科研費の分科・細目：医療・社会福祉、高齢者福祉
 キーワード：高齢者、専門職、対人関係形成能力、医療・福祉、実習、コミュニケーション教育

1. 研究開始当初の背景

専門職養成課程の中で、医療・福祉領域は隣接しているが、それに関わる教員が相互にその業務内容や養成方法を了解しているとは言いきれない。学生たちは実習先において、自身の専門性以外を学ぶ学生と共に実習に臨むことも少なくない。そこで自分と異なる専門職を意識することにより、自分自身の専門領域を改めて学ぶこともある。このため、養成する側もこれらの関連する専門性とその特徴を把握し、学生への指導に当たることが重要であると考えられる。

2. 研究の目的

- (1) 実習教育を中心とする専門職養成システムの現状について把握する。
- (2) 専門職養成課程の各領域（看護師・作業療法士・社会福祉士）の特徴を把握する。
- (3) 学習指導上の課題を示し、学生の指導過程で使える共通プログラムの条件を明らかにする。
- (4) 教育に用いる技能習得プログラムや評価票（試案）を作成する。

3. 研究の方法

(1) 文献と資料の整理

各専門領域の専門職者養成カリキュラムでの「対人技能」のとらえ方と、実習教育を中心とする専門職養成のシステムの実状について、資料と文献分析から、現状と問題点を示し、今後の専門職者の養成機関が学生指導過程で使えるプログラムの条件を抽出した。

(2) 調査の実施

以下の対象者へ、半構造化面接法を用いたインタビュー調査を実施し、¹⁾では、実習における課題や実際の実習に関わる指導内容など、また、²⁾については、業務における技能の発揮に関する実態の把握を行なった。

実習教育に携わる大学教員への面接調査

各専門領域において実習教育に携わる大学教員を対象に（看護師、作業療法士、社会福祉士の資格取得を目指す学生を指導する大学教員 6 名）対人関係の築き方にあて、コミュニケーションの技術をどう示すか、コミュニケーション力を高める教育的な指導としてどのような方法を用いるかなどを把握した。

老人保健施設 3 領域実践者への面接調査

老人保健施設の看護師、作業療法士、社会福祉士の業務概要を実態から抽出し、またインタビュー調査から対象者（老人保健施設職員 9 名）の業務上の気配りや対応などを把握し、具体的なスキルの明確化を行なった。

(3) 技能習得プログラム及び評価票の試案作成のための演習実施

面接調査を基盤に作成したプログラムと評価票を実際に用いて、実習前または実習を終えた 3 年生、4 年生に演習授業を行なった。また演習における自己評価シート内容をもとに、その効果や課題を検討し、内容の修正を繰り返し行なった。

4. 研究成果

(1) 専門職養成システムの現状把握と課題の明確化

領域によるシステムの異なり

各領域を概観すると、資格取得方法では身体接触を主とする看護師・作業療法士と、社会福祉士に関する相談に応じ、助言・指導する社会福祉士の間には、背景に大きな違いが見られた。中でも、同じ臨地実習機関での実習時間に関しては、その法的制度の違いもあり、時間の差が顕著に認められた。

各専門職の状況においては、その歴史的背景などもあり、看護師の職能団体の 1951 年という設立からの長さと比較し、作業療法士

と社会福祉士においては、法人化も看護師の組織と比較すると、30～40 年後の制定であり、異なりがみいだされた。

共通する課題

領域を超えて、共通する課題として次の内容が明確となった。

実習指導上の問題としては、教員配置・指導のあり方や実習関連授業と講義間の関連の薄さが示された。さらに、教育のベースラインのなさ、大学と実習先指導者との連携が重要となることが明らかになった。

この他、制度上の仕組みに関しては、授業の実践への応用方法や、教育環境の整備不十分さ、実習時間数や関わる教員数の問題などが示された。また、生活体験の不足や、立ち居振る舞いの問題などの近年の学生の特徴が明確になった。

(2) 専門職養成課程の各領域の特徴をふまえた教育課題の整理

各領域個別に出された意見として、実習教育における「事前学習が一定でなく」（社会福祉士）、「総合的な指導がむずかしい状況」（看護師）であり、「学生間・教員間、学生と教員のコミュニケーション不足」（作業療法士）などがあげられた。

今後の継続・検討課題としては、医療・福祉専門職養成課程における 3 領域共通の大学生としての学びの支援 専門職を目指す者としての気づかい・配慮などを深める働きかけ 導入教育を踏まえた初年次教育の必要性を提起した。

(3) 実践者から捉えた技能分析から共通スキルを明確化

老人保健施設における専門職者への調査結果について、共同研究者 4 名で内容をチェックし、KJ 法によりスキルの分類を行なった。

その結果、スキルは 456 を数え、「基本的コミュニケーション」（小カテゴリー 5）、「理解を深める」（小カテゴリー 3）、「状況把握・分析」（小カテゴリー 3）、「問題への対応」（小カテゴリー 2）というカテゴリーに分類された。これらの 4 分類は、対象者への支援の始まりから、具体的な問題への対応までの流れに即しており、各段階におけるさまざまなスキルが抽出された。

(4) 教育に用いる技能習得プログラムや評価票（試案）を作成

(3) の調査結果を分析し、専門職者を目指す学生への指導に用いる技能習得プログラム（「専門職の関わりスキル」）の試案の作成を行なった。その内容は、「出会いのスキル」（2 項目のスキル）と「関係継続のスキル」（10 項目のスキル）の計 12 の共通基本スキルで

構成された。また、これらの技能習得プログラムに呼応する「スキル尺度自己評価票」、「社会的スキル尺度票」、「振り返りチェックシート(自己評価)」、「振り返りシート」、「各スキルチェックシート(他者評価)」の5種類の評価票の試案の作成を行なった。

これらの技能習得プログラムと評価票を用いて(12スキルのうちの2スキルのみ)3領域ごとに演習を行ない(対象学生 計37名)最終的な試案の完成を行なった。

(5)まとめ

現在、領域を横断して高齢者との関係形成のための統合された講義や演習は乏しいが、本研究の結果から養成機関においては、領域間の垣根を超えて「実習教育における学生の対人関係形成能力」への一視点を共有し、学生の共通するマイナスの特徴に向き合い、将来の連携可能性を高めるために基礎的なカリキュラムの位置づけが重要と考えられる。

また、実習に関連する科目はすべて単独のものではなく、そのほかの講義、演習などつながるものであり、これらを一連のものとして関係性を明確に示し、システムを見直していくことが不可欠である。学生の対人関係形成に関わる能力やコミュニケーションに関する能力の養成は、教育に携わる側と学生との関係性、また、学生の教育環境や指導に当たる担当者間の連携に強く影響される場合もあり、その創意工夫が一層、求められる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

細川つや子・横山奈緒枝・難波悦子

大学における対人関係形成能力の教育に関する一考察 - 看護師・作業療法士・社会福祉士養成課程の実習教育における共通課題 -

大学教育学会誌 第30巻第2号(通巻第58号) 査読有 2008.11.19 159 - 163

難波悦子・横山奈緒枝・細川つや子・田中共子

対人関係形成能力の教育に関する現状と課題 - A大学の看護師・作業療法士・社会福祉士養成課程における比較 - 日本保健医療行動科学学会年報 査読有 Vol.23 2008.6.6 148 - 162

横山奈緒枝・田中共子

ソーシャルワーカーの対人援助技術 - 面接調査によるソーシャルスキルの整理を通して -

吉備国際大学社会福祉学部紀要 査読無 第13号 2008.3.31 35 - 42

横山奈緒枝・田中共子

ソーシャルワーカーに必要なソーシャルスキル - 研究の展望 -

吉備国際大学社会福祉学部紀要 査読無 第11号 2007.3.31 55 - 65

[学会発表](計9件)

難波悦子・横山奈緒枝・田中共子・細川つや子

高齢者福祉の場における対人援助技能習得プログラムの開発

平成20年度 吉備国際大学共同研究発表会 2009.2.25(於:高梁市)

細川つや子

他専門職者との比較からみた看護専門職の対人関係能力

第34回日本看護研究学会 2008.8.20(於:神戸市)

横山奈緒枝・田中共子

対人援助技能習得プログラムの試行と課題 - 社会福祉、看護、作業療法領域における専門職種に共通して求められるスキルに焦点をあてて -

第23回日本保健医療行動科学学会 2008.6.21(於:甲府市)

難波悦子

作業療法士国家試験で問われないコミュニケーション - 看護師、社会福祉士国家試験出題基準との比較から -

第42回日本作業療法学会 2008.6.21(於:長崎市)

横山奈緒枝

対人関係形成能力の養成プログラムの開発 - 高齢者福祉の場(社会福祉・看護・作業療法)で発揮される共通スキル -

第22回日本地域福祉学会 2008.6.15(於:京都府)

横山奈緒枝・細川つや子・難波悦子・田中共子

高齢者福祉の場における対人援助技能習得プログラムの開発

平成19年度 吉備国際大学共同研究発表会 2008.2.27(於:高梁市)

横山奈緒枝

社会福祉士養成における実習教育の課題 - 隣接領域との比較を通して -

日本社会福祉教育学会第3回全国大会 2007.11.3(於:札幌市)

難波悦子

作業療法士養成課程におけるコミュニケーション教育の現状 - 看護師・社会福祉士養成課程との比較 -

第41回日本作業療法学会 2007.6.24(於:鹿児島市)

細川つや子

医療・福祉専門職養成課程の学習指導上の課題 大学教育学会第29回大会
2007.6.10 (於：東京都)

〔その他〕

- (1) 研究代表者 横山奈緒枝
高齢者福祉の場における対人援助技能習得プログラムの開発 平成18年度～平成20年度科学研究費補助金 基盤研究C
研究成果報告書

6. 研究組織

- (1) 研究代表者
横山 奈緒枝 (YOKOYAMA NAOE)
吉備国際大学・社会福祉学部・准教授
研究者番号：90319989
- (2) 研究分担者
細川 つや子 (HOSOKAWA TSUYAKO)
吉備国際大学・保健科学部・教授
研究者番号：00278996
難波 悦子 (NAMBA ETSUKO)
吉備国際大学・保健科学部・講師
研究者番号：30289201
田中 共子 (TANAKA TOMOKO)
岡山大学・社会文化科学研究科・教授
研究者番号：40227153

(3) 連携研究者